

洗足学園音楽大学ファンファーレオーケストラ 第32回定期演奏会



2022年 6月17日(金) 18:30 開演
(18:00 開場)

洗足学園 前田ホール

主催:洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。



Program —プログラム—

Stijn Roels : The Essence of Youth

ステイン・ルールス：エッセンス・オブ・ユース

Jan Van der Roost : By the River

ヤン・ヴァンデルロースト：バイ・ザ・リヴァー

Jacob de Haan : Roll of Honour

ヤコブ・デハーン：ロール・オブ・オーナー

—休憩—

Richard Strauss (arr. Akira Shoji) : Dance of the Seven Veils from “Salome” Op. 54

R.シュトラウス (庄司燦 編曲)：『サロメ』作品54 から「7つのヴェールの踊り」

Richard Strauss (arr. Akira Shoji) : Der Rosenkavalier Suite from the Opera Op. 59

R.シュトラウス (庄司燦 編曲)：組曲『ばらの騎士』作品59



Program notes 一曲目解説

エッセンス・オブ・ユース (スティン・ルールス)

Essence of Youth (Stijn Roels)

《The Essence of Youth》は、聴衆も演奏者も元気になれるような曲である。明るいリズムとダイナミックさが感じられる輝かしいオープニングから始まり、その後の流れる動きはまるで日常生活で休みなく動き回る子供たちを象徴化している。

作品の主要主題の要素はすべて導入部に現れるが、その中には両親の心強い導きを表すコラールを含み、全音音階によるモチーフは子供の予測不能性を表している。

第1楽章と第2楽章は、不協和音のハーモニーと美しいメロディーを通じ大人と子供の絆における愛と緊張と心配を語る。第1楽章に基づくフーガから始まる最終楽章は、生き生きとした動きで壮大なコラールと共に、華麗なクライマックスへと導かれていく。

3年 鹿野 円香

バイ・ザ・リヴァー (ヤン・ヴァンデルロースト)

By the River (Jan Van der Roost)

《By the River》はベルギー、ボーム市のベルギー王国ルーベルゾネン吹奏楽団の150周年を記念してヤン・ヴァンデルローストと委嘱団体、そして指揮者のヨハン・デウィンとの固い友情から生まれた作品である。

作曲者の父ポール・ヴァンデルローストは、この楽団でフルートとピッコロの演奏を始め、ボーム市は、ヤン・ヴァンデルローストの故郷の近くに位置している。

ボーム市に隣接するルーベル川は、市の経済発展の歴史に重要な役割を果たした。中でも、煉瓦製造が盛んになり、国境を越えて栄えたが、この作品では産業の要素には触れず田園に焦点を絞っている。これは牧歌的なスタイルの繰り返しによって音楽に反映されている。

エキサイティングな主題、メロディのテクスチャーなど、この多様性はベルギー王国ルーベルゾネン吹奏楽団の長く豊かな伝統を表現している。

3年 梶田 茉朋

ロール・オブ・オーナー (ヤコブ・デハーン)

Roll of Honour (Jacob de Haan)

作曲者のヤコブ・デハーンは、オランダの北部フリースラント州のヘーレンフェーンで1959年3月28日に生まれた。主に、吹奏楽曲やミサ曲、独奏曲などを作曲している。

1928年にレーワルデンの音楽大学を卒業し、1984年までヨス・ファン・デル・コーイに付きオルガンを学んだ。その後、同地でアラン・ギンからも学んだ。

曲名の"Roll of Honour"とは戦死者名簿という意味があり、オランダのウオンス村の戦争記念碑に刻まれている第二次世界大戦の戦死者の榮譽を称えての楽曲だ。

冒頭では村への祝意を込めたトランペットとトロンボーンを主としたファンファーレらしい響きをきっかけに始まり、それ以降もバンド全体での纏まりが素敵な曲となっている。

フラストレーションと慰めの両方を描写する短調の穏やかな中間部を抜けると、冒頭にあった速いテンポが今度は勝利のマーチとして書かれている。

4年 永吉 彩花

『サロメ』作品54から「7つのヴェールの踊り」(R.シュトラウス / 庄司燦 編曲)

Dance of the Seven Veils from "Salome" Op. 54 (Richard Strauss / arr. Akira Shoji)

《『サロメ』から「7つのヴェールの踊り」》は、ユダヤの王女、サロメが裸に7枚のヴェールをつけて踊り始め、一枚ずつヴェールを脱いでいくという官能的な場面(7つのヴェールの踊り)、男の生首を受取り口づけをするサロメの長いモノローグなど、とても印象に残りやすく、「芸術的な官能のオペラ」と表すのがとてもふさわしい作品である。

作曲はリヒャルト・シュトラウス。

「7つのヴェールの踊り」という名前は1891年にオスカー・ワイルドがフランス語で書き、1893年に英訳して翌年に英語版が発行された戯曲『サロメ』のト書き。

サロメの内面のドラマに沿った演奏であり、様々なシーンが臉に浮かぶだろう。

2年 井上 瞳

組曲『ばらの騎士』作品59 (R.シュトラウス / 庄司燦 編曲)

Der Rosenkavalier Suite from the Opera Op. 59 (Richard Strauss / arr. Akira Shoji)

リヒャルト・シュトラウス(1864~1949)はドイツ出身の後期ロマン派を代表する作曲家のひとり。父がミュンヘン宮廷歌劇場の首席ホルン奏者であったフランツ・シュトラウスであることから幼い時から音楽教育を受け、作曲も行っていた。

そんな彼は1906年から1908年にかけてフーゴ・フォン・ホーフマンスタール(1874~1929)と《エレクトラ》で共作していたが、シュトラウスはモーツァルトを崇敬していたために、「次はモーツァルトの様なオペラを作曲したい」と言ったことからこの《ばらの騎士》を共同制作することになり作られた。この曲のストーリー性がモーツァルト作曲の《フィガロの結婚》に似ているのはこのためである。彼は今までの前衛的な作風を一気に変え、モーツァルト的な親しみやすい美しく優雅な曲風に作り上げた。前に演奏した同じシュトラウス作曲の《サロメ》とも対照的なのを感じられるだろう。

2年 新井 楓花

Conductor — 指揮 —



松元 宏康

東京都生まれ。幼少よりピアノ、エレクトーンを学び、洗足学園音楽大学ならびに同大学附属指揮研究所マスターコースを経て、仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者に就任し、プロ指揮者としてのキャリアをスタートさせた。

これまでに仙台フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団、群馬交響楽団、千葉交響楽団、広島交響楽団、日本センチュリー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、オーケストラアンサンブル金沢、九州交響楽団、大阪交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、シエナウインドオーケストラなどへ定期的に客演し、年間のコンサート出演は70公演以上を数える。

指揮法を秋山和慶、河地良智、増井信貴の各氏に、スコアリーディングを島田玲子氏に、クラリネットを松代晃明氏に師事する。

現在、ブリッツフィルハーモニックウインズ音楽監督、琉球フィルハーモニックオーケストラ正指揮者、グランドフィルハーモニック東京首席客演指揮者、洗足学園音楽大学講師。M-1グランプリにて3回戦出場の経験を持つ。(コンサートイマジン所属・スパンキープロダクション所属、東京都在住)



Members

—メンバー—

洗足学園ファンファーレオーケストラ

Concert Mistress	江原 春香						
Soprano Saxophone	岡本 彩花	石田 真彩	竹内 勇人	八木 寛菜	吉田 勇雅	泉波 陽美	高矢 真優
Alto Saxophone	寺東 春美	阿部 未来	楠本 夢菜	金丸 璃奈	北島 実幸	駒田 雅乃	瑞慶山 百恵
Tenor Saxophone	川口 華菜	水野 加奈子	志賀 友香	新井 琴乃	新井 楓花	伊藤 有莉愛	緒方 柊
Baritone Saxophone	大澤 茉依	葛城 輝	植木 里花	坂井 開	西田 大也	新田 乙葉	岡本 息
E♭ Cornet	加藤 早弥乃	池谷 彰恩	正木 航	菊地 伶海			
Flugel Horn	植田 優花	江原 春香	渡辺 寛子	竹内 大輝	井上 瞳	小松 美羽	宮澤 恵美
	谷中 彩乃	佐々木 右京 [#]					
Trumpet	宇津木 清来	藤田 雄大	堀江 風雅	鹿野 円香	神山 柊紀	大島 香那	清水 愛和
	松尾 知樹	杉原 輝					
French Horn	半崎 愛理	梶田 茉朋	金井 亮介	中野渡 真咲	PAN JUNLIANG	植田 香帆 [#]	山田 日香流 [#]
Trombone	出田 希乃	永吉 彩花	林 剛潤	三浦 健	CHI YAN-JEN	伴 芽衣菜	望月 愛永
	石澤 百蘭	中田 夏葵	永野 宏弥	宮川 蒼汰			
Baritone	加藤 千聖	佐々野 広雅	清水 榛菜	増野 玲音			
Euphonium	市村 結衣	大島 成実	荒木 優奈	関口 嬉架			
E♭ bass	遠藤 愛奈	長谷川 夏帆					
B♭ bass	高島 佳樹	櫻井 希有					
Percussion	梶下 紗奈	中嶋 遼	前田 歩都	前田 伶弥	加藤 海夏太	山野 智広	YANG YIDA
	相川 拓音	浅井 惇	内田 光太郎	岡崎 颯太	竹内 夏美	林 まど子	李 泰我
Harp	熊倉 実里*						
Celesta	富樫 桃子 [#]						
オンライン受講生	ZHANG XIAOHAN						

[#]…賛助 *…演奏補助要員

企画運営責任者	露木 薫						
副責任者	岩本 伸一	滝澤 尚哉					
指導教員	松元 宏康	貝沼 拓実	成田 徹	上田 仁	神代 修	本間 千也	古田 賢司
	五十畑 勉	久永 重明	池上 亘	菅 貴登	府川 雪野	山口 隼士	新井 秀昇
	岩黒 彩乃	齋藤 充	荻野 晋	次田 心平	渡邊 功	中村 祐子	野本 洋介
授業助手	土屋 莉帆						